

レッツ ICT

校内研究便り ⑧
平成30年12月20日
研究推進委員

1 高橋先生のご講演

現在の i-pad の使い方として、一つのグラフを教師から児童に送信し、手元のグラフを見ながらグラフの読み取りをする方法を紹介いただきました。いろいろな操作ができ、いろいろなことに挑戦したくなるころではあるが、i-pad は情報を限定して行う方法にも目を向けていくとよいそうです。

グラフの読み取りについて

- 読み取れてしまう子だけが読むのではなく、一人一人がじっくり読み取れるように練習をする。
- 読み取った事実をノートなどに書く→書くことで情報が整理され、新たな発見もある。
情報を限定する方法として
算数…問題の図だけを提示したいとき
国語…本文の続きを考えさせたいとき
など、教科書では先がわかってしまうため、自分で考えさせたいときなどに有効。

情報モラル

- 教材を利用しよう→具体的な対処方法を教える
(ex) 怪しいサイトと思ったら画面を消す
使用できる大人を呼ぶ など

一人一台の PC の活用

教科などの目標を達成するために

- 問題発見、解決的な活動において←ここを一番に目指したい
- 教材、資料の提示やビューアーとして
- ドリル的な活動において

情報活用能力の育成のため

- 問題解決、探究における情報活用
- プログラミング
- 情報モラル、情報セキュリティ
- 基本的な操作等

2 高橋先生のご講演 第2弾 (in 応接室)

- 学習過程を基盤に、問題解決をメインに考えていけると一番良い。 ICT はその場面でのツ

ールとして使う。

- 新学習指導要領にある各教科の「見方・考え方」とは、ある一つのことを覚えるのではなく、あらゆる見方・考え方を養っていくことで、生涯にわたって学んでいけるようになる。そのため、基盤づくりをしているのが「今」である。
- 資料の読み取りをする際、「資料を読み取り、〇〇について考えよう」といきなり課題を投げかけていないか？「〇〇について考えよう」の前に、事実確認→事実整理の方法を指導し、考察を指導する。資料の読み取り方（事実確認）ができないと考えることはできない。読み取った資料をまとめること（事実整理）ができないと考えることができない。いきなり考えようと児童に問いていないか？このプロセスを大事にしてほしい。

問題解決の授業展開として、どの教科でも問題・課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現が成立します。ICT活用の研究ではありますが、まずは、この問題解決の授業展開で授業を考えてみてください。その中に、タブレットが使えないかなどを検討していただくによりよい研究になりそうな気がします。

余談

- ドローンはプログラミングで動いている。室内用のドローンも売っているので、試してみたいは？（遊びで）
- one drive も上手に活用すると、自分のタブレット内の動画や写真を消さなくてもよい。